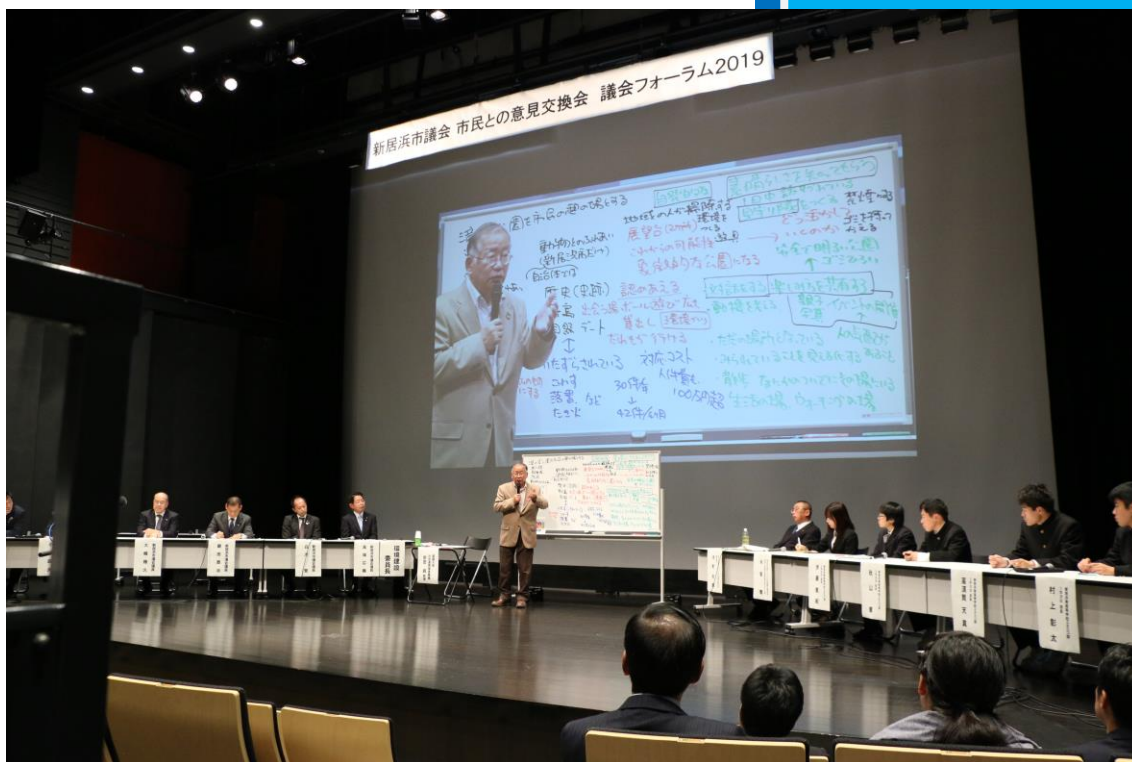


新居浜市議会 市民との意見交換会 議会フォーラム2019

開催報告書



令和元年 11 月 19 日（火） - 20 日（水）

新居浜市議会

目 次

	ページ
1 議会フォーラム 2019 の概要	1・2
2 開催結果	<3~34>
11月19日 企画総務委員会	3~7
11月19日 市民経済委員会	8~17
11月20日 環境建設委員会	18~26
11月20日 福祉教育委員会	27~34
3 来場者アンケート調査	
(1) 11月19日	35~38
(2) 11月20日	39~42
4 資料編 (会場ホワイトボード)	43・44

1 新居浜市議会市民との意見交換会「議会フォーラム 2019」の概要

①開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

②開催概要 ※各常任委員会ごとに2日に分けて開催。

日 時 I 令和元年11月19日（火）19時～20時30分（企画総務、市民経済）
 II 令和元年11月20日（水）19時～20時30分（環境建設、福祉教育）

会 場 あかがねミュージアム 多目的ホール

③プログラム

11月19日（火） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 企画総務委員会

参加団体 住友金属鉱山株式会社、住友化学株式会社
住友重機械工業株式会社、住友共同電力株式会社

テーマ「新居浜市の持続可能な発展について」

- ・住友各社との共存共栄

第二部 市民経済委員会

参加団体 新居浜警察署、新居浜金融協会、新居浜地区防犯協会

テーマ「新居浜市の防犯について」

- ・まちの安全対策について
- ・特殊詐欺について

11月20日（水） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 環境建設委員会

参加団体 滝の宮公園リニューアル計画策定委員会、新居浜南高等学校ユネスコ部

テーマ「持続可能（SDGs）な公園運営の在り方について」

第二部 福祉教育委員会

参加団体 新居浜市スポーツ協会

テーマ「スポーツによる地域活性化について」

- ・スポーツを通じたまちづくり

④来場者数 11月19日（火）… 75人

11月20日（水）… 80人

議会フォーラム2019

4つの常任委員会と関係団体との意見交換会

市民の皆さんのご意見を
市政に反映させるため
各種団体と4つのテーマについて
意見交換会を行います
皆さんも一緒に考えてみませんか？



-参加費無料・事前申込不要-

コーディネーター：愛媛大学社会連携推進機構 前田 眞 教授

会場：あかがねミュージアム多目的ホール

新居浜市議会
市民との意見交換会

企画総務・市民経済委員会

日時：11月19日（火）
19時から20時30分

協議テーマ：

I 新居浜市の持続可能な発展について

・住友各社との共存共栄

住友金属鉱山株式会社 住友化学株式会社
住友重機械工業株式会社 住友共同電力株式会社

II 新居浜市の防犯について

・まちの安全対策について

・特殊詐欺について

新居浜警察署 新居浜市金融協会
新居浜地区防犯協会

環境建設・福祉教育委員会

日時：11月20日（水）
19時から20時30分

協議テーマ：

I 持続可能（SDGs）な

公園運営の在り方について

滝の宮公園リニューアル計画策定委員会
新居浜南高等学校ユネスコ部

II スポーツによる地域活性化について

・スポーツを通じたまちづくり

新居浜市スポーツ協会

お問い合わせ：新居浜市 議会事務局議事課 0897-65-1321

2 開催結果

議会フォーラム2019は、2日間実施し、合計で155人が参加した。

議会フォーラム2019議事録

日時 令和元年11月19日（火）19時～

場所 あかがねミュージアム多目的ホール



■司会 市議会議員 近藤 司



■開会挨拶 市議会議長 伊藤 謙司

<第一部 新居浜市の持続可能な発展について ～住友各社との共存共栄～>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

（企画総務委員会）

- ・永易 英寿議員（委員長）
- ・越智 克範議員（副委員長）
- ・山本健十郎議員
- ・伊藤 優子議員
- ・藤原 雅彦議員
- ・篠原 茂議員
- ・井谷 幸恵議員

（住友金属鉱山株式会社別子事業所総務センター）

- ・神野 和彦（総務グループリーダー）
- （住友化学株式会社愛媛工場総務部）
- ・高田 佳幸（チームリーダー）
- （住友重機械工業株式会社愛媛製造所）
- ・石川 隆文（総務グループリーダー）
- （住友共同電力株式会社総務管理部）
- ・土岐 正和（総務チームリーダー）

フォーラム記録

●永易議員<委員長主旨説明>

新居浜市は、江戸時代に発見された鉱山を基に発展し続けている住友グループとの共存共栄により、「あかがねのまち」としての礎を築いてきた。今日に至るまでには、新規事業開発を鋭意進めることにより、厳しい時代を乗り越えてきた。今後も工業都市の発展による雇用の確保、産業遺産の維持による観光振興等々、住友グループと新居浜市の関係性強化によって持続可能に発展していくことを目指して協議していきたい。



○前田教授

最初に住友各社から現状や意見、会社概要も含めて説明をお願いします。

●神野総務グループリーダー（住友金属鉱山株式会社別子事業所総務センター）

会社概要説明

●高田チームリーダー（住友化学株式会社愛媛工場総務部）

会社概要説明

●石川総務グループリーダー（住友重機械工業株式会社愛媛製造所）

会社概要説明

●土岐総務チームリーダー（住友共同電力株式会社総務管理部）

会社概要説明

○前田教授

住友各社の概要説明を受けて、きょうのテーマである新居浜市の持続可能な発展について、住友各社はいろいろな意味での貢献をしていると思うが、そのことに関して、議員側から何か発言はあるか。

●越智議員

各社の内容は非常によくわかったのだが、今回のテーマである持続可能な発展について考えると、やはり雇用が一番大きな問題だと考える。若者のインターンシップや女性の雇用などに関して各社がどのように取り組まれているかを伺いたい。

○前田教授

インターンシップによる人材育成などについて、各社の取り組みはどうか。

●高田チームリーダー（住友化学株式会社愛媛工場総務部）

弊社は数年前までは地元からも必要な人材を必要なときに採用する体制を取っていたが、ここ数年は本社採用とは別に愛媛での採用を定期的に続けている。大学生へのインターンシップについても行っており、また高校生などにも化学に興味を持ってもらうために工場見学などを実施している。最近では、工場にも女性の製造スタッフなどがふえてきているので、女性も活用しながらよりよい会社になるように進めている。

●土岐総務チームリーダー（住友共同電力

株式会社総務管理部)

当社では、過去5年間平均で約15名を採用している。そのうち約3分の1が新居浜市出身者で、大学からのUターン就職や地元の工業高校、高等専門学校からの採用がほとんどである。実際には、採用環境は非常に厳しく、就職の際に県外や市外に目を向ける人や少子化が進んでいるため苦勞をしている。

●石川総務グループリーダー（住友重機械工業株式会社愛媛製造所）

ここ数年は定期的に地元の高校生を30名前後採用している。女性の雇用については、当社の製造部門では女性ができる職種が非常に少なく難しいところはあるが、住友重機械工業全体として、女性にどのような形で活躍してもらおうかということを考えながら、採用数をふやしていくように進めている。また、当社の技術者を講師として派遣したりと、新居浜市のものづくり人材の育成にもいろいろな形で携わっている。



●神野総務グループリーダー（住友金属鉱山株式会社別子事業所総務センター）

当社もここ3年間では高校生や高専生を中心に平均20名ぐらいを新卒で採用してい

る。また、中途採用も定期的には実施をしており、毎年30名から40名ぐらいを採用しているが、最近では、定期採用も中途採用も非常に厳しい状況で、定期採用については、先ほど話が出たように大学に行く方や都会に出ていく方がふえているようで、地元で就職しない方がふえてきていることも、一因にあると思っている。効果的に採用できるように当社もインターンシップの受け入れや工場見学を始めており、より魅力のある会社にしていくように取り組んでいるところである。

○前田教授

企業側としては地元採用で少し苦戦をしている部分もあると思うが、そのあたりについて、市議会としてこんな応援ができたらいいななどということも含めて何か意見はあるか。

●藤原議員

新居浜には実業高校として、商業高校、工業高校、高専があるが、普通科では大学進学で外に出ると、地元に戻ってくる可能性は非常に低い。定期的に採用するには、地元の実業高校や高専から住友に行く流れを市としても考えていかなければならないと考えている。現在、新居浜市が音頭を取って企業と高校生の合同就職説明会をしているが、私としてはもう一歩進んで、財政措置になると思うが、地元に残れば、運転免許を取得する際に市が費用の3分の1程度を補助金で出すとか、思い切ったことを考えていかないと、企業ばかりが頑張っ

もなかなか厳しいので、そのような要請を行っていききたいと思う。

●伊藤議員

住友各社の採用について、なかなか苦戦しているという話だったが、会社見学や出前講座などをしていただけると、学生にも理解していただけるのではないかと思うので、私たちにできることがあれば、そういう形で協力していききたいと思う。

○前田教授

今でもされているとは思いますが、もっと、たくさんできることがあると思う。

●篠原議員

私は住友重機械工業に勤務していたので、宇宙開発のはやぶさの話が出てきて大変懐かしく思っている。昨年、新居浜市の主催で住友企業の若手社員との懇談会を開催し、新居浜市で生活するためにはどのような町であってほしいか意見交換をしたが、娯楽施設や運動施設をもっと充実してほしいというような意見も伺っている。市の理事者と相談しながら新居浜に住んでよかったと思われるような町をつくっていこうと考えている。

●山本議員

私は住友化学出身で、以前は高専生もなかなか来てもらえないという話もあったが、先ほどの話では、定期的に採用していただいているということで、今後においてもぜひ続けていただきたい。新居浜市も新規事業などをしていただくために、ずっと予算計上して取り組んでいる。その中で新しく

LNGやメチオニンなどいろいろとやっていただいているが、なかなかそれに見合った雇用は以前ほど生まれていない。これは新しい事業形態であるため難しい面もあると思うが、新居浜市と企業が一体になって、今後ともそういう取り組みを続けていきたい。また、どなたからでも結構だが、製造の現状から、現在のような雇用体制は続けていただけるのかを伺いたい。



●井谷議員

本日は住友各社の概要資料を見させていただきすごいなという思いと地域経済の活性化などに本当に大きな役割を果たしていると心から思った。働き方に関してだが、正規雇用が全国的に低下しており、約4割が非正規雇用だと言われているが住友各社はどうか。市民生活を考えると正規雇用をふやす方向また下請け単価を引き上げることなどで中小企業支援を強めていただくよう希望する。

○前田教授

先ほどの雇用の継続や働き方、正規職員などの管理について、何か発言いただける方はいるか。

●神野総務グループリーダー（住友金属鈹

山株式会社別子事業所総務センター)

地元での雇用については、今後も定期的に多く採用できればいいのだが、毎年10名以上は必ず採用していくというような形で進めていきたいと考えている。

●土岐総務チームリーダー（住友共同電力株式会社総務管理部）

雇用に関して、当社もほとんどが正規雇用の社員であるが、臨時的な業務などもあるので、そういうところは使い分けながらというようになっていると思う。

まとめ

○前田教授

きょうの話を受けて新居浜市の持続可能な発展ということを考えたときに住友グループが果たしている役割をもう少し見える化していく、その価値をいろんな人に伝えていく必要があると思う。きょう伺った中でやはり新居浜にとっての経済効果が高いという話。そして、先端技術の開発をしている、あるいは生活を支える、世界を支えている企業で、なおかつ雇用も支えているという話。人材育成も行っているという話。それからSDGsやCSRなどで地域に貢献をしているという話。それらを考えたときに住友グループがあることによるシビックプライドのような、地域に誇りが持てる、自信が持てるものになっているのではないかと、また企業があることによる信頼感、安心感につながるというような、価値のキーワードが列挙できる。そして、そういうものをもっと見える化させていくことによ

て、地元の人たちがそこに勤めるという流れをつくっていく上でも住友グループで働くことの意味や価値などを伝えていくことが大事だと思った。それは官民挙げてやっていくべきものという気もするので、そういうことを祈念して私のまとめにかえさせてもらいたい。



議会フォーラム2019議事録

日時 令和元年11月19日(火)19時55分～

場所 あかがねミュージアム多目的ホール

<第二部 新居浜市の防犯について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】 ※敬称略

(市民経済委員会)

- ・ 藤田 誠一議員 (委員長)
- ・ 黒田 真徳議員 (副委員長)
- ・ 仙波 憲一議員
- ・ 伊藤 謙司議員
- ・ 合田 晋一郎議員
- ・ 片平 恵美議員

(新居浜警察署)

- ・ 中野 真一 (生活安全課課長)
- (新居浜地区防犯協会)
- ・ 藤岡 渉 (事務局長)
- (新居浜金融協会)
- ・ 久米 良樹 (会 長)《伊予銀行》
- ・ 神谷 勇輝《愛媛銀行》
- ・ 横井 大和《東予信用金庫》
- ・ 竹林 良恒《愛媛信用金庫》

■閉会挨拶 市議会副議長 小野 辰夫

フォーラム記録

●藤田議員<委員長主旨説明>

近年、全国的な傾向として、また、本市においても、犯罪の発生件数は減少傾向にあるものの、子どもや女性を狙った犯罪、犯行手口が悪質化、巧妙化しているオレオレ詐欺や還付金詐欺等の特殊詐欺など、日々の生活を脅かす犯罪の発生が後を絶たない。

そのようなことから、市民が安全で安心して暮らせる、犯罪の起きにくい社会づくりの推進に向け、日頃より防犯活動に取り組んでいただいている団体の皆様との意見交換を通して、本市の防犯対策について考えてみたい。



○前田教授

安心して暮らせる社会をどうつくっていくかになると思う。関係団体の皆様に、まず新居浜市の犯罪がどういう状況なのかということを説明していただいてから、意見交換に入りたいと思う。

●中野生活安全課長（新居浜警察署）

提案主旨にもあったように、治安の指数となる刑法犯認知件数が減少している。全国では、平成14年のピーク時には約285万

件発生していたが、平成30年は約82万件。

県内では、平成15年のピーク時には約2万7,000件であったが、平成30年は約8,600件。当署管内でも平成13年のピーク時には、約2,400件発生していたが、平成30年は705件と、全国も県内も管内も約30%まで減少している。ことしの1月から10月末までにおいては、県内では6,296件と昨年の1月から10月末までと比較して、783件減少している。管内でも今年の1月から10月末までにおいては、522件で54件減少している状況にある。そういう中で不審者通報もあり、今年10月末現在、県内では708件、管内では52件の不審者通報、声かけ、つきまといが発生している。特殊詐欺については、今年10月末現在、県内では認知件数が51件、前年度比マイナス15件で、被害額が約1億3,000万円、前年度比マイナス2,000万円となっている。一方管内では、認知件数が6件、前年度比プラス3件と倍増しており、被害額については約330万円、前年度比プラス50万円とふえている状況にある。

○前田教授

刑法犯認知件数、不審者通報、特殊詐欺被害について、状況を話していただいた。減っているから安心ということではないと思う。まだ安心して暮らせる環境にはなっていないというイメージだと思う。そういう状況に対して関係団体は、どういうことをしているかお話を聞きたい。

●藤岡事務局長（新居浜地区防犯協会）

普段皆さんには、防犯協会はなじみがな

いとは思う。成り立ちは、自治会の形で隣組というのがあり、近所の防犯に役に立っていたが、戦後、GHQが入ってきて、監視集団になっているという理由から廃止され、自治会その他が1回はばらばらにされた。しかし、戦後の混乱を含め、犯罪に対する防御が足りないということで、一つは、民の自治会という形で、市町村単位で、例えば新居浜市では新居浜市防犯協会という形となり、今は自治会の防火防犯部、防災防犯部など、名称はいろいろある。それともう一つは、全国規模で犯罪に対応するため警察署単位で、地区防犯協会ができた。その上には、県の防犯協会連合会、全国の管区単位で、四国防犯連絡協議会という形になっており、現在新居浜地区防犯協会の会長は市長で、運営に関しては補助金をもって充てている。こういう2本立ての防犯協会が成り立ち、活動している。地区防犯協会としては、警察の指導を中心に受けて防犯思想の啓蒙を進めている。今日も会場の入り口に防犯対策等のチラシを置いているが、校区単位の各支部の防犯ボランティアの皆さんに防犯相談所長として市長と警察署長の委嘱を受けてボランティア活動をしてもらっている。その中でチラシと防犯グッズをスーパー等の出入り口や国道等で配布し、皆さん一人一人に防犯意識を高めていただくという活動をしている。

○前田教授

金融協会からも防犯のためにこんなことをやっているということをお話いただきました

い。

●久米会長（新居浜金融協会《伊予銀行》）

銀行としては、警察からのアドバイスをいただきながら、例えば、高齢者のお客様と接する機会には、キャッシュカードを他人に絶対に渡さないとか、口座番号や暗証番号を教えないとか、不審な電話は相手にしないといったことを常々言っており、ATMで高齢の方が電話をかけながら振り込みしている時には必ず声をかけるということも励行している。



●神谷さん（新居浜金融協会《愛媛銀行》）

伊予銀行と似ているが、高齢者が犯罪に巻き込まれることをとめるために、窓口で出金、振り込みの際にはチェックリストに基づきヒアリングを行って、不審な点があればゆっくり話を聞いて、またお客様が興奮したり、聞く耳を持たないという状況になったら、警察の力を借りて対応するということも励行している。最近では、ATMを使って送金をして犯罪に巻き込まれるケースもあるので高齢者のお客様に対するATMの振り込みの限度額をちょっと少なく設定して大金を動かさないという形で防止するということもしている。また年に1回、

新居浜警察署の力を借りて防犯訓練をしている。特に特殊詐欺の訓練をよくしており、最近の手口のVTRを見たり、講話を聞いたり、現場の実際の声聞いて行員のセンスを磨いている。また、実際に特殊詐欺などが発生した場合には、電子メールやFAXなどで、こういう手口が今、県内、松山市内で発生しているということをリアルタイムで情報発信して、窓口で注意喚起をしている。また側面的なことになるが、特殊詐欺の犯罪を防止することに貢献した行員に対して表彰したり、特殊詐欺の受け皿となる口座の作成に関しても、厳密な調査を行い、犯罪用に使われる口座をなるべくつくられないように注意している。

●横井さん（新居浜金融協会《東予信用金庫》）

まちの安全対策としては、まず1つ目が信用金庫の場合は得意先係が日頃、集金や年金を自宅に届けるサービスをしている。そのような活動を通した啓発活動や子どもSOSのステッカーを営業店に張ったり、営業店の前面道路に防犯カメラを設置して地域の見守り活動を展開している。2つ目として、当たり前なことではあるが、いらっしやいませ、ありがとうございますの声かけで、明るく来店しやすい店づくりを実践することを一つの啓発活動と捉えるとともに職員の防犯に対する意識を高めている。特殊詐欺については、1つ目は先ほどの愛媛銀行と重なるところがあるが、窓口での多額の出金、現金振り込みのときの声

かけ、ATMコーナー、得意先の訪問時には防犯協会のチラシを活用して注意喚起をしている。また、ATMの1日の出金限度額に利用制限を設け、一定年齢以上の方にATMで振り込み制限をすることによって、特殊詐欺の対策をしている。

●竹林さん（新居浜金融協会《愛媛信用金庫》）

愛媛信用金庫の取組方針としては、先に皆様がお話されたことと重複するので内容については割愛する。ただ、愛媛信用金庫の取組姿勢としては、face to face、お客様との面談を大切にするという方針があり、高齢者の方が大口の出金で来られたとき、その理由について合理性チェックリストに基づき、対応させていただいている。お客様の大切な資産を守る、そしてお客様を犯罪から守るという意識を全ての窓口の者が持って対応に臨んでいる。

○前田教授

いろいろな取り組みをしているが、特殊詐欺がちょっと増加傾向にあったりと、防ぎきれてない部分もあるのではないかなと思うが、現場で行われていることを聞いて、議員から何か意見等はないか。

●黒田議員

特殊詐欺が管内で6件起きているということで、今はオレオレ詐欺は古い形態と思われるが、現在では一体どのような特殊詐欺が行われているのか、教えていただきたい。

●中野生活安全課長（新居浜警察署）

昔からあるオレオレ詐欺もなくなっては
いない。その後、還付金詐欺が一時期はや
ったが、今は減っている。最近発生しだ
したのが、架空請求。しかも電子マネーカ
ードのカード番号を聞き出してお金を手に入
れる架空請求がふえてきている。また、最
近ふえだしたのが、皆さんテレビでご存知
かもしれないが、キャッシュカードをすり
かえて盗む形のものである。これも犯行手
口が振込詐欺と似ているので、特殊詐欺(窃
盗型)に分類している。今のところ、これ
らがはやっている。

●黒田議員

話を聞いて、市民の方も目で見えるよう
な形で見せてもらったら本当に取り組みや
すいと思われるので、警察署と市が連携し
て市民の皆様が目に見えるような形で提供
していただきたい。



●合田議員

今の話に関連するが、犯罪の見える化と
いうのが重要ではないかと思われる。警察
署、防犯協会、金融協会と、犯罪抑止の関
係で、いろんな形で啓発活動を行って
いただいております。また市でも出前講座という形
で犯罪等の講座がある。そういったものに

も積極的に参加していただいて、住民の方
に犯罪を知ってもらうというのが、抑止効
果になると思うし、また、こういった場や
出前講座という形になると、構えた形にな
るので、できたらワンポイントで、いろん
なイベント等に参加して、その中で5分く
らいで、犯罪を紹介するというような仕組
みで取り組めたらいいと思う。

●片平議員

窃盗犯等の認知件数が減ってきているの
は、多分、防犯カメラの広がり結構関係
があると思うが、ハード面で犯罪を抑止す
る力と先ほどから話が出ているように自分
がそういう犯罪に遭わないように気をつけ
るという両方の面が必要だと思う。先ほど
話があった窓口で明るく挨拶をするよう
な人と人との関係、コミュニケーションが地
域の中での防犯の力としてすごく大きくな
ると思うが、イベント等で出前講座をし
てもらっても、なかなかイベントに出て
来られない方もいるため、隅々まで防犯意
識を届けるにはどういう方法があるのか。

●中野生活安全課長(新居浜警察署)

先ほど、出前講座と言われたが、警察で
もやっている。若手警察官でつくっている
「せいれん塾」という塾があり、寸劇だけ
ではなく、いろいろ技術を上げたり、奉仕
活動をしたりするようなグループをつくら
せている。それで企業や公民館に行って寸
劇をしたり、また私自身が公民館とか学
校に行き、最近こんなのがはやっている
という話はさせていただいている。言っ

ったら行くので、どんどん指示してほしい。防犯カメラは確かにかなり効果があると思う。それについては防犯協会に取り付け等をしてもらっている。

●藤岡事務局長（新居浜地区防犯協会）

新居浜市における防犯カメラ事業に関して説明する。5年前になるが、市と連合自治会と警察署と商工会議所で4者協定を結び、防犯カメラを普及しよう、安全安心のまちをつくらうということで、新居浜市において3年計画で、市の施設を対象に年200万円で防犯カメラ設置事業を続けてきた。3年計画が終わった後も、昨年からは100万円減額になっているが、防犯カメラ設置事業を継続している。今までのところ設置は公園関係が多くなっている。それと同時に防犯協会を窓口にしてカメラ基金の口座を設置して一口1,000円から寄附をいただいて、金額を満たせば防犯協会が設置して寄附をする。対象は通学路等、危険箇所を選定して設置している。ただ残念なことに、現在のところは住友さんなどから寄附をいただいて何とか賄っているが、一般市民の寄附がなかなか集まらないので、これを機会に皆さんに広めていただきたい。きょうは入り口にチラシを置いている。「こんなとき我が家の防犯大丈夫？」という犯罪手口等を書いたチラシもあるのでたくさん持って帰って皆さんに配布していただきたい。そういったことで広まっていくのではないかなと思う。

○前田教授

カメラ基金というものがあるということを知り初めて聞いて、いい取り組みだと思うが、広めていくためにはどうしたらいいかということも含めてアイデアはないか。



●仙波議員

確かに防犯カメラは犯罪抑制に非常に役に立つと思うが、個人のプライバシー等と言われる方もいるので、そういう点からすると若干難しいとも思ったりする。しかし今の時代はどうしても人間関係が希薄になっているので、そういう手段を広げていくということが一番近道ではないかなと思う。余談だが、最近は神社などで賽銭泥棒が出る。市内で5件も6件も出ており、犯罪の傾向が一過性、一連のものがあるように聞いたが、そのような点はどうか。

●中野生活安全課長（新居浜警察署）

犯罪の傾向であるが、管内で多いのが、万引きや器物損壊、車をパンクさせるなどである。自転車盗が60件、特徴的なのは施錠率が低いことであり、鍵をかけずに盗まれたのが52件で全体の約87%である。愛媛県全体では74%であるので、市民の方に鍵をかけていただくように広報しているところである。オートバイ盗も多く、18件。こ

これは愛媛県全体の 17.3%である。人口の割合は約 9%であるので、かなり多い状況になっている。今のオートバイは鍵がものすごく頑丈で昔は簡単に壊されたが、今はなかなか壊しにくいということで、オートバイも自転車も家も鍵かけをしていただいたら大変助かるし、こういう傾向をちょっと知っていただいて、鍵かけのほうをよろしく願います。

○前田教授

鍵をかけてないのは、基本的に自分の責任という気もするが、松山などでは鍵を配ったりするのもあるし、ついてない自転車は本人の了解をとって、鍵をつけたりしているが、新居浜市ではどうなのか。

●藤岡事務局長（新居浜地区防犯協会）

自転車の鍵についてはきょうも入り口にチラシを置いてあるように、私どもも鍵かけ促進を願って配布している。あと若い学生の鍵かけが少ない。おそらく周りがかけない、自分だけが鍵をかけるのは格好悪いという感覚を持つのだろうと思う。特に高校生あたりに皆さんから鍵をかけようと口酸っぱく言ってもらうのが一番効果的ではないかと思う。私もチラシを持って、鍵も配布している。きょうはたくさん用意しているので持ち帰って、近所、お友達に鍵をかけるように配っていただいたらありがたいのでよろしく願います。

○前田教授

会場に、学生の姿が見えている。自転車の鍵はかけているか。

●学生（男性）

かけている。

○前田教授

ああいう学生がふえたらいいなと思う。自助でやれることもあると思うが、それ以外に今までの話を聞いた上で何か感想はあるか。

●伊藤議員

中野生活安全課長より、自宅の鍵をかけてないところがあるとの話があったが、都会ではないと思うが、田舎である新居浜では高齢者の自宅でかけていないところは結構ある。金融機関で集金等に回っている方は、施錠していない家が多分わかっていると思うので、そのあたりの注意喚起をお願いすることはできないのか。

○前田教授

金融機関の皆さん、どうか。鍵をかけてなどの声かけができるかどうかだが。

●久米会長（新居浜金融協会《伊予銀行》）

本当に簡単なことだと思うので営業マンに鍵をかけてなかったら、「おばちゃん、鍵かけときや」などと常々言うよう指導していきたいと思う。

○前田教授

私も八幡浜だが、田舎のほうに行くとやはり鍵が開いてる。近所の人勝手にドアを開けて物を置いて帰ることが多くある。それ自体はすごくいい社会なのかなと思うが、犯罪を考えるとそれではだめなのかと思う。犯罪に遭わないために防犯意識を伝えていくような話があったが、そういう点

に関してはこんなことをやっているとか、こんなことをやったらいいのではないかななどのアイデアはあるか。啓発はするが、なかなか隅々までは伝わっていないという意見があったがその辺はどうか。

●久米会長（新居浜金融協会《伊予銀行》）

イベントで啓発するとしても、来てもらえないのではないかという話もあった。本当にそのとおりだと思う。私どもは外回りしている者もいるので、警察からパンフレットやチラシなどをもらって配布したり、アンケートを取ったりしている。そうでないと来る方が少ない。私どもは、高齢者の方々の接触機会が比較的多いので、その都度、啓蒙をしていくということが大事だと思う。電話をかけたならそれこそ詐欺かと思われたらいけないので、知っている相手、知っている銀行員が直接会ってアドバイス、啓蒙していくということが大事だと思う。そのためにいろんなチラシをもらっている、ありがたいと思う。

○前田教授

その辺のチラシはいろいろお配りしていただくことにしておくといいかなということ、顔の見える関係の中で伝えていくことが大事という気がする。そういうことをやっていけたらいいと思う。会場のほうから何かここを聞きたいとか、逆に防犯を考えた時にこんなことをしたらいいのではないかという提案もあると思うがいかがか。

一般からの意見

●一般人（男性）

防犯のことではないが、会全体のことで、私は第1回からずっとこの会に参加している。市民との意見交換ということで始まったが、最初は自治会の人たちがいっぱい来て陳情というような感じだったが、途中からフォーラムという形で議員と各種団体の意見交換になり、一般の市民は意見を言う場がないということでだんだんと参加者が減ってきている。きょうも議員と市職員がほとんどで一般の人たちが減っているというのが現状だと思う。いろいろと団体の人たちから教えてもらっている、皆さんの勉強会みたいなものだが、それをもとに議員活動でどういうことに生かしたのかということをごんごん発表しないと、議員が何をやっているのか市民には一切わからないのじゃないかなと思う。そういうことをやらないと、フォーラムをやっても皆さんが満足しているだけであって、一般市民との接点がそんなに近づくことにならないのではないかと考えている。それとコーディネーターの方も時間がなくてなかなか大変だろう。2題もしなくても時間を十分とって、1題を煮詰めていったらいいと思うし、せっかくアンケートを取っているのだからそれに基づき、どうよりよいものにするかということをごんごん必死で考えないと、毎年漫然と同じことをやっても進歩がないと、それをしないと議員は何をしているのだろうかというような声になるのではないと思う。議員は理事者をチェックすると思う。その議員をチェックするのは

一般市民だろうと思う。せっかく議会基本条例までつくったのだから、よく読み込んでしっかりと議会改革をやっていかないと。厳しい世の中なので、そういうのをもうちょっと取り組まれたらいいのではないかと思います。

○前田教授

全体の進め方の話なので、後でまた御意見を聞きたいと思う。今回の安全安心なまちに向けての話で、何か皆さんのほうからあるか。

●一般人（女性）

私もきょう初めて参加し、先ほどの方と同じような感想を抱いた。この件に関して聞いたかったのは、自治会の放送などでたまに電話による詐欺があったと聞こえたりするが、犯人は新居浜の方なのか、それとも市外なのか、解決したのか、その後のことがすごく気になるが、そういうところはどうか。



●中野生活安全課長（新居浜警察署）

捜査のことで詳しいことはいえないが、解決したものもある、していないものもある。今放送と言われたが、実は、四国中央市や西条市などで被害が出たら、新居浜市

にお願いして、放送してもらおうようにしている。結構効果的なようで、捕まえてない犯人はどこから来たのかわからないが、どうも県外から来ているようだ。まず香川が被害に遭って、四国中央市が被害に遭って、放送しているのを割と新居浜市を飛ばして西条市が被害に遭う。多分今治市や西条市は放送設備がないと思う。それが新居浜市の強みなので、そういうものを活用しながら被害防止をしたいと思う。公にできる数値も当然あるので、そういうものは積極的に情報発信したい。私は1カ月に1回ぐらいFMラジオのHello! NEW 新居浜に出させてもらっているので、そういうところでも情報提供をしていきたいと考えている。

○前田教授

防犯に対しては、いろんな人たちが自分たちのできることを取り組んでやっていると思う。それでもなかなか発生が防げないということもある。そこは個人の人たちがそういう電話を受けた時に、どう対応するかを啓発しながらやっていかないといけないし、近所の人と相談できるようなコミュニティーみたいなのができていくことも大事だと思った。どうすれば地域で犯罪を防ぐことができるかというのもこれから考えていけたらいいと思う。最後に、今回のフォーラムの進め方について御意見があった。それに対して、ここではっきり言えることかどうなのか、持ち帰ってどういう風な進め方に変えていくか議論するというのも

あるかと思うが、発言をお願いします。

●伊藤議員

確かに参加者の方がなかなか来ていただけないというのは現状であるが、こういった各種団体と話をしたことを、この後の議員活動、議会運営等、また各委員会の中でいろいろと煮詰めていって、いい新居浜市になればということでこのフォーラムを開催している。その辺のことは重々承知していただけたらと思う。それと今回警察署生活安全課長さんに来ていただいたが、警察の方とお会いしてお話をするということは、一般市民もしかり、私ども議員でもなかなかない。こういった貴重な意見というのも、ケーブルテレビでも流すので、そういったところで見ていただけたらと思っている。この会自体が、少し盛り上がらない部分もあるが、有意義な会になっていると私は思っており、その辺もご承知いただけたらと思う。

●仙波議員

私が議会運営委員会の委員長をしており、フォーラム形式で行うことを決めた。確かに、市民との意見交換は難しく、言われたとおり当初は要望を受ける形になったりしたが、我々議会というのは執行ができる理事者ではない。例えば、我々が予算を提案して現実的に進めるということはないが、行政の仕組みの中でこういう風にして行ったほうが良いという意見を述べられるというところはある。各種団体と話をする中で今議長も言ったように我々も見識も深めて

いきたいし、市民の皆さんにこういうことも考えているということの一つでも理解していただければいいかなど。同じ方法でやっているように見えても、例えば今回のように防犯という議題を選ぶまでには皆さんの意見や毎年いただいているアンケートを含めて考えている。特に今回はことしが改選期であり、今までこういう形のものに出たことがない議員もいるので、終わった後に、次にどういう形で市民との意見交換をすればいいのかということも十分相談をしたいと思っている。



まとめ

○前田教授

もう時間が来てしまったのでこれで終わりたい。防犯については地域のコミュニティーの中で防いでいくということもぜひ考えていただけたらと思う。会の進め方については持ち帰っている議論をされると思うので、来年どういう形で進んでいくかは、請う御期待ということできょうは終わりたい。

議会フォーラム2019議事録

日時 令和元年11月19日(水)19時～
 場所 あかがねミュージアム多目的ホール



- 司会 市議会議員 山本 健十郎
- 開会挨拶 市議会議長 伊藤 謙司

<第一部 持続可能(SDGs)な公園運営の在り方について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(福祉教育委員会)

- ・高塚 広義議員(委員長)
- ・白川 誉議員(副委員長)
- ・藤田 豊治議員
- ・大條 雅久議員
- ・小野 辰夫議員
- ・神野 恭多議員

(滝宮公園リニューアル計画策定委員会)

- ・寺町 光博(委員長)
- ・永易 舞(委員・新居浜南高等学校元ユネスコ部)
- (新居浜南高等学校ユネスコ部)
- ・伊藤 美紀(3年次生 部長)
- ・秋山 響(2年次生 部員)
- ・高須賀天真(2年次生 部員)
- ・村上 彰太(1年次生 部員)

フォーラム記録

●高塚議員＜委員長主旨説明＞

滝の宮公園は、昭和 31 年の開設以来 63 年が経過し、施設の老朽化等が見受けられるため、より一層市民の皆様に親しまれる憩いの場として復活させることを目的に市民各層の皆様と協議、検討を重ね、リニューアルに関する基本計画を平成 31 年 3 月に策定し、本年度より滝の宮公園リニューアル事業が開始されている。しかし、市内の公園や公共施設では、さまざまないたずらが見受けられ、対策に苦慮しているのが現状である。今回の意見交換会では公園や公共施設等の今後の運営管理のあり方やいたずらをなくす意識啓発について、皆さんと一緒に考えたい。



●高塚議員

滝の宮公園のリニューアル化事業について少し説明させていただく。この事業は今年度より 1 期 5 年計画で公園全体を順次整備していく予定となっている。まず、今年度は公園進入道路の拡幅工事と公園入り口のエントランス部分の整備を行う。それ以後シルバー人材センター南側空き地を駐車場として活用することで駐車場の拡張を行う。また大型複合遊具や幼児用遊具を整備したり、小動物施設を整備したりしながら小動物との触れ合いイベントも継続して

いくようである。そして池周りのウォーキングコースをやわらかい舗装にしたり、民間業者の協力もいただく形での貸しポートや飲食店を復活したり、また池の水の浄化についても検討されると伺っている。

○前田教授

本日は、計画策定にかかわった方に来ていただいているので、そのあたりの話を伺いながら進めていければと考えている。

寺町先生から計画策定にかかわられた際の、苦勞された点や策定ポイントなどがあれば伺いたい。

●寺町委員長（滝の宮公園リニューアル策定委員会）

私は獣医師であるため、動物の飼育場所を初めにお願いした。今、御存じのとおり鳥インフルエンザ等もあり、地方自治体で動物を飼っているところは極めて少なく、愛媛県では新居浜市だけである。動物に触れ合える場をまず何とかしたいということから話を引き受け、いざ中に入って勉強してみるとこの滝の宮公園は、歴史もあるし、山全体が史跡であった。史跡から始まり、野鳥の会の方に聞くと今頃ちょうどそうだが渡り鳥が必ずやってきたりする。この自然の素晴らしさを失ってはいけないということを勉強させていただいた。会では、さまざまな方面から 13 人ぐらいの委員に参加いただき、いろいろな意見をいただいた。そのような中で今後どうやったらよいのかということはまだまだ結論は出ていないが、初めの入り口としてはこのような感じである。

○前田教授

永易さんも委員会に参加をされているが、参加した感想をお話しいただきたい。

●永易委員（滝の宮公園リニューアル計画策定委員会）

滝の宮公園は、遊具のイメージがすごく強く、展望台が2つもあるすごく広い公園ということをおぼろげに忘れてしまいがちで、ウォーキングコースであったりとかボートであったりとか、これからも可能性がたくさん出てくるし、新居浜市にとってアピールできるような公園になるものもたくさん残っていると思う。



○前田教授

市民にとってとても象徴的な公園となる可能性がたくさんあるという話だが、公園の持っている価値を今後どうやって生かしていくのかということが運営上すごく大切であると思うのだが、運営について議員の皆さんのほうから考え方等があれば聞きたい。

●白川議員

きょうの議会フォーラムに向けて、こういった公園整備の話となるとどうしてもつくづく目に向けがちで、どうやって維持管理をしていくかということについては、あまり議論する機会がないため、我々環境建設委員会としては、まず現状を把握するところから始めようということで、市役所の職員にも御協力いただき、現状をまとめたので御報告させていただく。

まずは、市内の公園等のいたずら状況についてのスライドである。こちらは一部ではあるが公園トイレ入口部分の器物の破損や河川敷への不法投棄、休憩所などでの火遊びなどもある。右上の写真は先ほど話のあった滝の宮公園の第一展望台のところであるが、火遊びのいたずらは山火事の恐れなどもあり、非常に危険であった。その他にも内容が内容だけにきょうはちょっとお見せできないが、卑猥な表現での落書きであるとか、ちょっと耳を疑うかもしれないが、汚物をトイレの天井に投げつけるなどといったような、見るだけで気分を害するようないたずらも確認した。また、より状況を把握するために、いたずら行為に対応した件数を調査した。平成28年度から平成30年度については、市役所の職員、業者の対応件数が大体年間平均約30件であったが、今年度に入りたった5カ月間でその年間平均をはるかに上回る42件となっており、年々ふえている。これに伴う業者に委託をする修繕費用と、いたずら対応により通常業務ができない市役所の職員の人件費を換算してみると、今年度はすでにもう100万円を超えているような状況である。現状把握は以上になるが、公園整備について、どのように維持管理をしていくのかがいいのかをこのような機会にさまざまな世代の、さまざまな価値観のいろんなアイデアをいただいで次に反映したいと考えている。

○前田教授

市民にとってとても価値がある公園なのに、いたずらされていることが結構多い。そしてそれに対応する費用も結構かかっており、本来なら使わなくていいお金が100万円ぐらい出ている。そういうものを防い

でいくということは本当に市民の宝としての公園になっていくために大事なこともしれないと思う。いたずらを防ぐようなアイデアや考え方を高校生の若い皆さんに出していただきたい。

●伊藤部長（新居浜南高等学校ユネスコ部）

私は、今いたずらが起きてしまっている状態になっているのは、公園がただの場所、敷地というような感じになってしまっていて、人々の憩いの場所になっていないからではないかと思う。そのため、公園に行ったら必ず誰かがいるという環境があればいいと思う。

○前田教授

単なる場所になってしまっているからいたずらが起きるのではないかと。そこに誰かがいて、監視と言う言葉が悪いが見られているという環境ができれば防ぐことができるのではないかと。

●秋山部員（新居浜南高等学校ユネスコ部）

なぜこのようないたずらが起きるかという、いたずらをする人たちはそんなに悪いことをしようとしていたずらをしているわけではなくて、その人たちがその公園の一つの楽しみ方として捉えているからだ考える。僕は、このいたずらを防止するためにはいたずらをしている人たちとの対話が必要だと思う。僕たちの公園の楽しみ方とその人たちの公園の楽しみ方がずれていると、これから持続可能な公園にできないと思うのでしっかりと対話してお互いが楽しめる公園にしていくことが大事だと思う。

○前田教授

単にお願いをするのではなく、一緒に話をしていくことはすごく大切なことである。

●高須賀部員（新居浜南高等学校ユネスコ

部）

先ほどの、人がずっといる公園という意見に近くなると思うが、例えば早朝であれば犬の散歩、小学生の登校を見守った地域の方がその帰りに公園に寄ったり、昼頃になると学校帰りの子達が遊びに来たり、夜は体づくりのために散歩をしたり、僕の父もよく夜に歩きに行っている。そういうことで公園を活用できたらいいと思うので、ウォーキングコースなどを整備して、人がその場所に来やすい工夫、普通に歩く道としても選択肢に入るような場所ができれば人がいつもいるような空間ができるのではないかと思う。



○前田教授

そこに行く用事や役割を持たせて、行く状況を仕掛けていったらいいのではないかと。

●村上部員（新居浜南高等学校ユネスコ部）

最初の意見と似てしまうかもしれないが、自分はいたずらをしたことがないため、いたずらをする人の気持ちや動機は理解できないが、いたずらをしやすい空間は、やはり人のいる気配がない空間であると思う。実際には人がいなくても、人の気配のする場所があれば、見られているような気がするし、いたずらもしにくいと思うが、人がいる気配がないと誰も見てないからばれないのではと思い、勢いづいてやってしまう

のもあると思う。どうしても公園は誰も使わない時間もあると思うが、常にどこかに人がいるような気配が感じられるような整備をしていくと、100%防止するのは難しいかもしれないが、確実に少なくすることは可能だと思う。

○前田教授

やはり人の気配があるということは大事である。では、人の気配をどうやってつくっていくか。

●永易委員（滝の宮公園リニューアル計画策定委員会）

人を呼ぶためには、滝の宮公園でイベントを開催するのが早いのではないかと考える。最近地域コミュニティーも薄れてきているという問題もあるため、親子で参加できるようなイベント、例えば落ち葉を拾うイベントであったり、ウォーキング写真を撮影するイベントであったり、そういう活動をしていく中で公園自体も安全で明るい公園だということを伝えていく。また、そのイベントを通して、公園は市民のものであるという考え、意識を高めていくこと。そのイベントでごみ拾いをしたりするなどして、つながりをつくり、みんなで明るい公園をつくっていくのがいいと思う。

○前田教授

公園にかかわることによって愛着が湧き、自分たちの公園であると思えるような仕組みができたという御意見があったが、寺町先生からも対策等何かあればお伺いしたい。

●寺町委員長（滝の宮公園リニューアル策定委員会）

私も滝の宮公園にかかわりを持ったことで改めて感じたが、私は新居浜に住んで 40

年になるが、全く知らなかったことだらけであった。まずは公園のすばらしさを知っていただくこと。そして、朝も夜も結構多くの方が訪れているが、案外素通りが多い。ほかの例でもあるのだが、見守り隊のような何かよいアイデアを考えてみんなに目覚めていただく。公園を目覚めさせるというアイデアはどうか。

○前田教授

見守り隊があれば、もっといいということだが、このようなアイデアの実現に向けてどのように動かしていくのか、となった場合、市民が立ち上がってやろうとする話もあり、それを行政が応援しようとするものもある。あるいは行政が主体的にやろうとするものもある。こういう形でやればいいという皆さんの提案もあると思うが、議会側のお考え、御意見を伺いたいがいかがか。

●神野議員

まず、ユネスコ部の皆さんの意見は、いつも刺激になったり、気づきになったりする。きょうも、公園がただの場所になってしまっているというのは僕の中で確かにな、と感じた。その後で、愛着をとということと言われていたが、それも間違いなく、滝の宮公園の僕の記憶というと、亡くなった祖父に手を引かれて遊具で遊んだ記憶がしっかりとあり、そこに愛着があるからこの滝の宮公園を大事にしようという気持ちにつながっているのだと思う。行政としてこの管理運営をどうして行くかという、制度的にはPPPやPARK PFIというものもあるが、そうではなくもっと根底にある気持ちをどう育むかだということは、皆さんの言うとおりに思う。僕自身も定期的にパトロールなどで展望台に登るなどし

ているが、なかなかそれだけではタイミングも合わず、抑止にもまだ足りていないと感じている。そこで、ハード面という防犯カメラなどもつけていただいているが、それもまだまだ足りていないのかなと思う。ユネスコ部に伺いたい、どんな公園だったら大好きと感じるか。予算も無視してこんな公園を新居浜市につくってほしいという案があれば伺いたい。

●秋山さん（新居浜南高等学校ユネスコ部）

僕は、認め合える公園がいいと思う。今、世の中に感じていることだが、これをしなければいけない、これはしてはいけない、というように堅苦しいとか縛られているというイメージがある。そのため、何をしてもいい、極端な話だがいたずらをしてもいいとか、裸で踊ってもいいとか何でもありの公園があれば、もっと明るくなるのではないかと思ったので、認め合える公園があったらいいなと思う。



○前田教授

お互いを認め合える場があればということだが、ほかにはどうか。

●伊藤部長（新居浜南高等学校ユネスコ部）

私は、遊具だけではなく、ボール遊びもさせてもらえて、できればボールも貸し出してくれて、ふらっと立ち寄っても友達と遊べるような公園がよいと思う。

○前田教授

公園は、周りの人にけがをさせてしまう恐れ等があるため、なかなかボール遊びができなかったりする。そのあたりをうまく自分で周囲の状況を踏まえて遊べるようになればボール遊びのできる公園もあってもよいかと思う。松山市の例だが、松山市にはキャッチボールのできる公園をつくらうという市民の声があり、その際にはネットを高くするなどの整備をして、ボール遊びのできる環境整備を市で応援した例もあった。先ほどのお互いを認め合い、応援し合えるということもできるかもしれない。

●大條議員

ボール遊びの話と皆が認め合える公園という話が出たので、提案というよりも実際に私の自治会内にある児童遊園地についての話だが、結構グラウンドが広くボール遊びは自由である。南高はすぐそばである。三角ベースをやっていたりキャッチボールをやっていたりサッカーをしていたりする。ただ、すぐ横に自治会館があり、窓ガラスが割れそうになったことや、玄関をゴールがわりにしてサッカーボールを蹴ったりするので、やはり大人の目が時々必要だというのは悩みの種である。それ以外には自治会館を守るためのネットを張って、定期的に補修している。管理する大人の感覚でできることではないかという思いがある。それと公園デビューという言葉のとおり、公園というのは小さい子供から高齢者までみんなが集えて人が出会う場所であってほしいと考えている。みんなの理解が必要というのは確かにあるが、大人が努力することで地域の感覚でなるべく堅苦しいルールを避けることができるのではないかと思う。

いたずらの話が出たが、みんなのものだから、みんなで大切にしようと言うと、大抵誰も大切にしないわけである。多少わがままでも自分の公園だと思って守ってくれる人をどうやってつくっていくか、そういったことを心がけていくことかと思っている。

○前田教授

やはり自分のものだと思えば大事にするというところもあるかと思う。

●藤田議員

私は滝の宮公園で40年ぐらい前にデートをした。それはボートでのデートであった。今度リニューアルをするが、そういう思い出の深い滝の宮公園であり、青春時代にボートを漕いだことで今の家内がいる。思うに、子供から高齢者までが集えるような公園にすることによって、先ほど言われていた人の気配を感じるようになると思う。いろんな人がその公園に行くと楽しいと感じ、出会いのある公園にすべきだと思う。

○前田教授

誰もが行けるというのはそのための環境をつくるとか、誰もが参加できるイベントをすとか、バリアフリー、さらに言えばユニバーサルデザインのようなものを用意していかなければいけないと思うが、そのあたりは今回のリニューアル計画の中で配慮されている部分はあるか。

●高塚議員

滝の宮公園は早朝から高齢者の方々が中心に池の周りを散歩をしているなど、いつでも誰もが入れて楽しむことができる状況である。先日小動物との触れ合いイベントがあったのだが、駐車場が少なくて困っている部分はあるので、今回のリニューアルで駐車場を広げていこうという計画もある。

私も近くの公園をウォーキングする時に立ち寄って体操などを行っている近所の方といろいろ話をしたりするが、やはり毎日使っていれば、我が地域の公園という形で愛着、愛情も湧き、そして清掃もきちんと地域で取り組んでいこうという思いも出てくるし、いたずらがあればすぐに直さなければならぬという思いもあったり、そういう心から愛着のある公園を私たちはつくっていきたいという思いが皆さんとの話の中で出てきた。

○前田教授

では会場の皆様の意見を伺いたい。

●会場（男性）

いたずらについてだが、他県の例で小学校で喫煙の問題が発生した時期があったのだが一年足らずでおさまったことがある。それはなぜかという、地域の人が吸い殻を拾ったからである。そういう環境づくり、不法投棄やごみも、そこにごみが捨ててあるから捨てていいのだという意識になるから環境が一番大事なのではないかと思う。

○前田教授

ごみがない環境をどうつくるか、そういう時に地域の人が協力してくれるといいという話。ほかには。

●小野議員

滝の宮公園について小学生100人くらいが書いている作文を読ませていただいた。内容の中で多かったのは滝の宮公園にはごみが非常に多い、低学年の遊具しかなく高学年向けの遊具がないというような声だった。ごみについては、モラルの問題もあるが、看板等の設置が少ないという意見もあった。看板設置ならば簡単に対応できるのではないかと思う。

●白川議員

ボランティアをふやそうとか地域を愛そうというのは、非常に聞こえはよいが、なかなかそこにたどり着くのは難しい。鶏が先か卵が先かだが、我々として市役所の方に話ができるとするならば、それは自治体ポイントのような、例えば Tポイントカードの自治体版みたいなもので、ボランティアに参加すればそのポイントが付与されて、その付与されたものが地域で還元できると。その財源をどうするのかとなった時に、聞かれたこともあると思うが、ソーシャルインパクトボンドとして最近注目されている、行政のコストを下げ、下げるだけではなく追加のこともして効率を上げていくというようなそういったものを我々も政策提案をしていくとか。そういった形であれば、若い人たちもメリット、デメリットだけで動くわけではないと思うが、そうしたことがあるほうがより強い動機となる気がする。

○前田教授

高校生の皆さんはどう思うか。 Tポイントカードみたいなものを使ってという話だがか。

●村上部員（新居浜南高等学校ユネスコ部）

ポイントがたまっていくと、自分でもこれだけ頑張ったのだという成果が見えていいと思う。

○前田教授

あとどこで使えるのかということも大事になると思う。

●会場（女性）

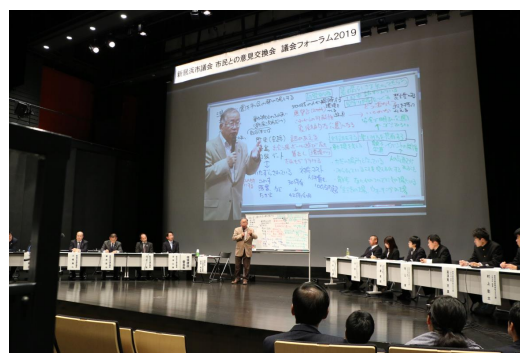
親子連れで滝の宮公園に行った時に、結構喫煙されている方がいてそれで行かなくなってしまった。もう小学校高学年になっ

たのもあり、遊具が低学年向けというのもあるが、喫煙されている方が結構おられてやめところとなった。あとごみのことだが、小さい子がいる家庭は、自分たちのごみは絶対持って帰る。ごみを拾ったらポイントというのもわかるが、それを子供と一緒に拾おうと思った時に、汚いから触らんときってになってしまう部分もある。結構家族連れはごみを持って帰っていると思う。見ていて大人のほうがごみを捨てていると感じる。子供達には看板がなくても家族の中で共有はできると思う。大人の問題だということをいつも見ている。ポイントカードもいいのだが、触らせたくないというのもある。

○前田教授

ごみの問題は大人の問題なのではという意見だが、これもとても大事な部分である。市民の資質も含めて、市民の誇りというようなものをそこで示すことができればいいと感じた。きょうは滝の宮公園を中心として、いたずらからスタートしたが、公園の価値をちゃんと共有できるかどうかというのは大きいと思う。いたずらをしている人を単に排除するのではなく、いたずらをしてないように、あるいはごみを捨てないようにするのを運動として広めていき、ごみを置いて帰るということが恥ずかしいことだと思えるような運動を展開していくことが必要かと思っている。対処療法はいろいろあるかと思うが、根本的ところで人の意識をどう変えていくのかというのは、さっき言われたような見守り隊をつくるためにもその公園を自分たちがどう考えていくのか対話をするとか、楽しみ方を共有するとかというような、そこを利用する人たちの、

つくる時の話し合いではなくて今後どういう風にしていくかという時の話し合い、これをワークショップという言い方をするが、そういうのを繰り返しやっていながら、自分たちの場所、自分たちの公園だから大事にしようという気持ちや、ボランティア的に見守り隊みたいなものが生まれてくるなど、そういうものを生み出す環境をつくらないといけない。ごみを持って帰るのが大変だから、ごみ箱がないといけないというような意見がどうしても出てくるが、そこは自分たちが持って帰ればコストもかからなくて済む。そこをちゃんと伝えていかないといけないで、さっきSDGsの話があったが、それは国連が決めた話ではあるが、17の目標とするゴールがある。それを考えた時に、基本的なところは誰一人見落とさない、一人でも救っていくというようなことがベースにある。そういう人達と公園をきっかけとしてつながっていく。また、公園の価値というのは、先ほど寺町先生からいろいろな気づきがあったが、知ることによって気づきが生まれる。知る機会をもっとたくさんの人に提供することは大事であると思う。いかに話し合いの場をつくっていくか。高齢者の人たちから若い人たち、あるいは小学生、子供さんにも参加してもらって自分たちの公園のよさを体感してもらおうということも含めてやっていくことが大事だときょうの話を聞いて思った。つくるまでは一生懸命議論をするが、つくった後のこともちゃんと議論をしながら進めていくというのは本当に大事だと思った。きょうの若い人たちの意見も踏まえながらできていけばいいと思う。



●市民（男性）

滝の宮公園は桜の花の時は非常に盛況でよい。花咲くところに人集い、人集うところに知恵が湧くという。どうすれば人が集うか。桜の花だけじゃなくて藤の花とかいろいろなものがあると思うが、いかにして人を呼び込むか。滝の宮公園へ行けば四季折々の花が咲いているのだと、花を愛する人は、花よりもなお美しいとも言われている。四季折々の花を咲かせてほしい。

まとめ

○前田教授

そういうふうになんかかわり方をしていくのがいい。その花も自分たちが一緒に手入れをすとか世話をすとかを考えていけたらよいかと思う。今日の意見交換を機会に滝の宮公園だけではなく、身近な公園も含めて、皆さんにとって自分達の居場所として考えていくようになることを祈念してこの意見交換を終える。

議会フォーラム2019議事録

日時 令和元年11月20日(水)19時50分～

場所 あかがねミュージアム多目的ホール

<第二部 スポーツによる地域活性化について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(福祉教育委員会)

- ・田窪 秀道議員(委員長)
- ・伊藤 嘉秀議員(副委員長)
- ・近藤 司議員
- ・藤田 幸正議員
- ・米谷 和之議員
- ・河内 優子議員
- ・小野 志保議員

(新居浜市スポーツ協会)

- ・真鍋 和人(会長)
- ・安藤 進一(副会長)
- ・高砂 純一(副会長)
- ・乗山 弘誓(副会長)
- ・皆尾 洋二(スポーツ医科学委員長)



■閉会挨拶 市議会副議長 小野 辰夫

フォーラム記録

●田窪議員<委員長主旨説明>

人口減少に伴い少子高齢化が一段と進む中、市民の健康に対する意識は高まっており、生涯スポーツというようにスポーツを通じて健康を維持しようとする人々もふえてきている。そうした状況から、スポーツをただ「する」だけでなく、「観る」さらには「支える」といったスポーツへの積極的なかわり方をする人もふえており、今後においてはボランティアなどへの協力も見込まれるため、スポーツをまちづくりの手段とすることは最も有効であると考え、本日はスポーツによる地域活性化について新居浜市スポーツ協会の皆様を交えて議論し、今後どのような効果が望めるのかを考えていきたい。



○前田教授

健康を維持するということがあったが、スポーツをすることによってこんな効果が生まれる、そこを目指すというような、スポーツで地域を活性化した時のイメージをお話しいただきたい。

●安藤副会長（新居浜市スポーツ協会）

スポーツイベントを通してスポーツに携わる方、親しむ方を少しでも多くしようということだが、新居浜市はスポーツに関して何もない町ではなく、今、隣にいらっし

やるオリンピックメダリストである真鍋さんの出身の町、ウエートリフティングの町とも言われている。それからサッカー日本代表の福西さんが出た町、国体で3連覇した小嶺さんの町、ヨットの町という話もある。過去のレジェンドを核としたイベントを開催して多くの人を集めてムーブメントを起こす、そういうところに非常に価値があるのではないかと思います。

●高砂副会長（新居浜市スポーツ協会）

レクリエーションとしてのスポーツは、子供から始まって一般、シニアの方、特に最近シニアの方は、健康のためや趣味でスポーツをしている方が多いと思う。例えばあかがねマラソンのように、子供に合った距離、アスリートに合った距離、年配者に合った距離とか、いろいろな世代、人に合ったやり方をすれば、子供から年配の方まで一緒にスポーツをやってみんなでわいわいできる。昔は、アスリートだけが頑張っていて、努力、根性という感じでやっていたと思うが、今は趣味的にやる方が結構多いため、そういう方がやりやすいルール、人の集め方を考えれば、活性化につながっていくのではないかと思います。

●皆尾スポーツ医科学委員長（新居浜市スポーツ協会）

まず思い浮かぶのは、先日のラグビーの世界カップ。岩手県の釜石市は震災で復興の最中だと思うが、町全体が盛り上がってラグビーを盛り上げていた。ああいう大変な時にできるのは、新日鉄釜石というラグビー部がずっとトップチームでやっていたという歴史、伝統があったというのがある。新居浜市でいえば、ウエートリフティングや、最近少し注目され始めた中学駅

伝などを中心に盛り上げていくのも一つの手ではないか。

○前田教授

そういうものを大事にしていけたらいい。真鍋さんはトップランナーであった立場もあるが、どうか。

●真鍋会長（新居浜市スポーツ協会）

ウエートリフティングの場合は、2017年のえひめ国体で、地元ということではいろんな形で選手の活躍をご覧いただいたと思う。それに伴っていろんな市内の諸団体の方にもお手伝いいただき、いろんな方にお世話になった。いろんなスポーツへの参加の仕方があると思うが、食事を出していただいたり、消防の方とか警備の方とか、いろんなボランティアの方の力があって成功になったと思っている。国体はめったにないが、それに似たように、来月にあるあかがねマラソンは3回目です。だんだん参加者もふえてきて、それに伴ってボランティアの方もふえてきたと聞いている。また、地域の方が積極的にボランティアで参加いただくというような、地域を挙げて皆さんが参加できるようなスポーツが好ましいのではないかと思います。合わせてスター選手、もし来年のオリンピックに地元の選手が出れば大々的に盛り上がると思う。それも大事なことだと思う。

●乗山副会長（新居浜市スポーツ協会）

ソフトボール協会の会長をしているが、現在は80チームぐらいのエントリーで、各20人として1,600人ぐらいのお世話をしている。ジュニアからシニアまで、生涯スポーツとして確立されたため、土日は一年中河川敷を使っている。十何年前には100チームを超えるようなエントリーだったが、

特にジュニアが減っており、女子の中学生の選手は非常に少なく、いい選手は市外、県外で活躍している。長崎望未さんという新居浜出身でトヨタ自動車に入り、3番バッター、4番バッターをしている逸材がいる。そういう選手が出る環境として、ソフトボールに関しては河川敷のグラウンドがたくさんあり、県の大会を実施したり東温高校などに練習場として貸したりしているが、子供がソフトボールにもう少し関心を持ってくれば、というところである。



○前田教授

関心を持ってもらう手だても考えないといけないと思うが、誰もがやれるスポーツを考えるとということと、トップランナーをどう育てていくのかということが一つの方向性として見えてくる。少子化や県外、市外へ優秀な選手が流出したり、育てる土壌が足りていないのではないかという意見が出たと思うが、それについて議員の皆さんからアイデアやどんな応援ができるかということも含めて発言いただきたい。

●田窪議員

トップアスリートを目指すのは結構なことだと思うが、オリンピックにパラリンピックが制度化され、精神障害者対象にスペシャルオリンピックがあるように国体にも障害者スポーツ大会がある。そんな点か

ら新居浜市のスポーツの祭典である市民体育祭を考察すると、スポーツ協会が競技スポーツをし、校区の体育振興会が軽スポーツをする、それは悪いことではないが、スポーツをする側に特化しているのではないか。別の日に開催されている障害者児のスポーツ大会も同時開催できれば、する側、見る側、支える側全てが参加できて楽しめる大会になるのではないか。そういうことが地域の底上げにつながるのではないかと考えている。

●近藤議員

市民の健康増進に向けたスポーツということでは、数年前に私の校区で近隣公園が整備された。近隣公園をつくるに当たって校区の皆さんのいろんな意見を集約した中で、誰もが身近にスポーツができるような公園、災害の時に集まれる公園というようなコンセプトがあった。誰もが身近に集えて健康づくりができるという点では、大人の健康遊具を入れ、公園の周辺に一周 300メートルか 400メートルのウォーキングコースをつくった。そして身近にスポーツができるという点では、多目的なグラウンドということで、高齢者はグラウンドゴルフ、小学生などはソフトボールやサッカーなどで利用している。今、新居浜市には近隣公園が大体六、七カ所くらいできているが、校区単位くらいまで数をふやすことができれば、健康長寿、若い人の健康づくり、三世代の交流もできるのではないか。

○前田教授

基盤としてそういう場が整備されることはすごく大事な点ではある。それも身近な公園として。トップランナーの場は別に用意しないといけないうかもしれないが、そう

いう場が用意されればいいという意見である。

●伊藤議員

新居浜市からトップアスリートが出てくると、ふるさとの共有感ができ、応援する側に回っても非常に喜びがある。そういう意味では、先ほど障害者のスポーツ大会ということがあったが、私も水泳の岡部歩乃佳さんを応援しているが、トップアスリートとして出てくる時期が若いほど、成長に費用がかかっているのではないかと思う。それを一家庭で維持していくことはなかなか難しい。スポンサーがついてくれるような年代になるまでは、市民で支えていくような仕組みが必要ではないかと思う。また、トップアスリートが出てくるためには、子供たちがもっといろんなスポーツに触れ合えるような土壌をつくっていかなくてはいけないのではないか。ソフトボール、サッカー、野球など、テレビで割と見られるものだけではなく、スポーツ協会と市が一緒になって、例えば1日山根グラウンドを借り切って、就学前の子供を連れて行くというような競技や楽しみが味わえるというような、いろんな競技を見たり体験できるような土壌が必要ではないか。

●米谷議員

スポーツによる地域活性化ということであれば、トップアスリートや優勝など全国的に非常に大きな活躍をするチームが新居浜市から出ると、大変話題にもなるし、それをきっかけに市内外の交流が生まれ、町がにぎやかになる、まさにスポーツによる地域活性化だと思う。ただ、どういうふうに強化、育成を進めるのかということになると、対象の選手やスポーツを絞るとい

うことになるが、それは行政の非常に苦手な分野である。それに対して、例えばサッカーでいうと J 1、J 3、その下に実業団があり、学生スポーツがあり、トップアスリートとその下のピラミッドになると思うが、その底辺、裾野を広げていくことが行政の第一義的な役割ではないかと考える。新居浜には 10 円プールがあり、よく話題になるが、水泳という競技の入り口として 10 円でそういう場所が利用できるということは、行政として非常に大切な役割を果たしているのではないか。また、健康づくりのためのスポーツ、誰もが自分なりにスポーツに取り組める環境づくり、結果的に多くの方が年をとっても元気で活発に活動できるというのも、一つの活性化ではないか。私としては、その場づくりを行政に働きかけていきたいと考えている。

○前田教授

トップアスリートと底辺の人たちも含めて応援の仕方が少し違うのではないかと同時に役割分担、行政が得意な分野とそうでない分野があるのかもしれないということがある。

●小野議員

新居浜市には、山、海、島がある。自然と一体化したスポーツを考えてみてはどうか。徳島県の三好市では、大自然の中でいろいろしているということで、かなり観光客も来ているという話を伺ったことがある。また、新居浜市に住んでいるとなかなかいいところが見つからない。ここは、あえて他県から移住した方やほかの国から来た方から、新居浜市を外から見て、住んでみてこんなスポーツが合うのではないかというのを聞きたい。また、見るスポーツ、する

スポーツ、支えるスポーツということだが、支えるというのがなかなか難しい。私が以前公民館長をしていた時にあった問題だが、地域のスポーツチームの監督がやめるとなった時に、後継者がいない。地域の方などをお願いするが、仕事の都合などで難しい。そういった、支える、子供たちを育てることがなかなか難しい現状だと感じている。このあたりも行政とともにやっていかなければいけないところだと思っている。もう一つ、きょう車椅子バスケットの皆さんとお話をした。松山市で市長杯をしているから新居浜市でもできないだろうかという話を伺ったが、新居浜市に車椅子の方がたくさん来られて泊まる所があるのか。また、会場など、こういった施設的な整備もこれからしていかなければいけないのではないかと。健康寿命を伸ばすという面でもいろんな世代、環境の方が気軽にスポーツを楽しむ新居浜市になって欲しい。私自身も頑張っていきたい。



○前田教授

いろいろな意見が出た。トップランナー、裾野をどう育てていくのかという話もあるが、まずは、誰もが参加できる環境づくりをしようとする時に、ハンディキャップの人も含めて万人が参加できる方法について、こういうことをしている、こういう環境が

あればもっとやりやすいということがあれば、スポーツ協会の皆さんからも意見を出していただきたい。

●**乗山副会長（新居浜市スポーツ協会）**

要望になるが、えひめ国体で新居浜市が会場に選ばれなかった理由の一つが、河川敷のグラウンドであるということだった。西日本大会ぐらいまでであればできるが、国体クラスの会場としては認められないということがあった。グラウンドの数はあるがそういう状況なので、総合運動公園というか、もう少し違う場所できちんとしたグラウンド整備をお願いできれば。また、河川敷のトイレが水洗ではないため、毎回大変ネックになっている。

○**前田教授**

公式な大会ができる会場というのは、フットボールだけでなくいろんなスポーツというイメージでいいか。

●**乗山副会長（新居浜市スポーツ協会）**

はい。

●**安藤副会長（新居浜市スポーツ協会）**

スポーツによる地域の活性化にはいろんな方法があると思うが、例えば総合型スポーツクラブの拡大、強化、これは障害者から健常者までを対象にした地域スポーツクラブであり、ヨーロッパでいうとスポーツシューレになると思うが、現在、そういうものを発展、立ち上げようという動きが新居浜市にも出てきており、いろんな勉強会もして知識を深めているところだが、総合運動公園のような拠点となる施設がない。総合型スポーツクラブの隣に、第一部で出てきた憩いを求める一般の人たちの公園があれば、スポーツに親しむ人、憩う人が集まれるスペースができるのではないかと、そ

ういうことも考えられると思う。また、プロスポーツを立ち上げる。いい例が今治市だが、FC今治は来シーズンからJ3に昇格する。そういう状況で、今治東高校はことし愛媛県で勝ち抜いて高校サッカー選手権の全国大会に出ることになった。プロスポーツは、スポーツに対する動機づけが強い。みんなの関心が広まり、プロスポーツを支えていこうという機運も高まると思う。スポーツに参加する人、支える側に回る人、そういう形でスポーツに携わる人がたくさんふえてくる。ただし、プロスポーツを立ち上げようと思えば、一般だけではだめで行政の力も借りなければいけないと思う。そういういい例を見るというのも非常にいいと思う。先々週くらいにテレビ放送を見て思いついたが、島根県の奥出雲町は、1万2,000人ぐらいの町だそうだが、フィールドホッケーの町である。島根国体の時にフィールドホッケーを初めて開催し、それまでは真っ白な地域だったがフィールドホッケーの町になった。町に2つある中学校に町営の人工芝のホッケー場が隣接してでき、町に1校しかない高校の横田高校は、今ではホッケーの全国レベルの高校になっており、ほかの地域から越境して高校生が集まる。その高校生が大学に行って帰ってくるのを受け入れる企業も誘致している。すごい成功例だと思うが、そういう他の地域の成功例を見るのも活性化のヒントになるのではないかと思う。

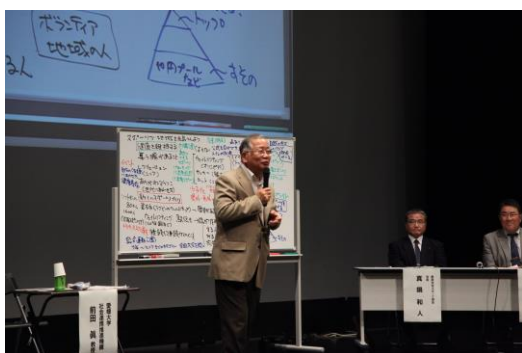
●**皆尾スポーツ医科学委員長（新居浜市スポーツ協会）**

レベルの高い試合を見るという話があったが、今、市では総合運動公園の構想が具体化しつつある。体育館を例にするとバレ

ーボール、バドミントン、バスケット、卓球、それぞれの種目に少年、中学、高校、一般、シニアの категорияがある。それらの全国大会を誘致し、体育館の建設後5年間ぐらいは何らかの全国大会があるというようにしてほしい。ホテルを初め経済効果があり、身近にあるということでボランティア活動が始まり、家族の食卓の話題にもなり、ボランティアもふえていくという盛り上がりが出てくると思うため、総合運動公園の時にはぜひそれを考えてほしい。

○前田教授

市民の皆さんの関心も高まり、みんなで一緒にやるという機運が盛り上がりませんといけないと思うが、会場の皆さん、スポーツを考えた時に、新居浜市だとこんなスポーツをすれば関心が集まるのではないかなというアイデアはあるか。



●一般人（男性）

先ほども車椅子バスケの話が出たが、バスケットボールとかがいいのではないかな。部活道の人も皆さん楽しそうにやっている。結構楽しくできるのではないかなと思う。また、僕は運動が得意なほうではないので、スポーツが苦手な人にも配慮してほしい。

●一般人（男性）

ラグビーの指導に少し携わっていたが、

場所が少ない。競技によって場所の数が偏りすぎていないか。ラグビーは、幼稚園児でも高齢者でも楽しくできるスポーツである。スポーツへの入り口をふやしていないと、スポーツの枠は広がらないのではないかなと思う。

●一般人（男性）

パブリックビューイングをしてほしい。なぜかという、僕はスポーツを見るのが好きだが、ルールがわからない。格好いいと思ったことを学校で話そうとしても、話を通じない。パブリックビューイングで見られる施設があれば、詳しい方に教えてもらえたり、感動を共有できる。そういう場所があればいい。

●一般人（男性）

プロレスをしてほしい。愛媛プロレスがあるが、新居浜市にはご当地レスラーがない。新居浜南高校の商品開発の授業でご当地レスラーを考えてみようということで、実際に愛媛プロレスのレスラーに来てもらってプレゼンをした。ご当地レスラーが欲しいと切実に願っている。

●一般人（男性）

滝の宮公園にも関連した事だが、新居浜市の場合、いろんな施設の駐車場が問題だと思う。グリーンフィールドも駐車場がないためにほとんど使われていない。ほとんどの施設がそうだと思う。滝の宮公園だと、進入路の両側の土地を全て買って駐車場にするくらいにしないと、わずかの車で一杯になり、人が行けない。総合運動公園をつくると言うが、3倍、4倍の駐車場をつくってもらわないとだめだと思う。よろしく願います。

まとめ

○前田教授

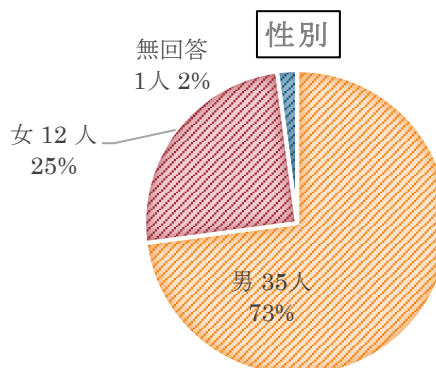
スポーツを、する人、見る人、支える人、応援する人、それぞれの立場でかかわっていくことができるような環境、雰囲気づくりをしていくのが大事だと思った。トップランナーを育成する話もあるし、スポーツを広げていく話もある。行政はたくさんの人たちが参加することを応援する、トップランナーは企業などの人たちが応援しながらやっていくという役割分担も含めて考えていくのがいいと思った。ただ、場所がないとそれもなかなかうまくいかない。場所の利便性も含めて考えていかないといけないと思う。スポーツで活性化をという話になった時には、そういうことを含めた全体のビジョンをつくっていくのも大事なことだと思った。新居浜のスポーツで皆さんが元気になることを祈念してこの意見交換会を終わりたい。

3 (1) 来場者アンケート調査 (11月19日)

■来場者にアンケート調査を実施し、48人(回収率64.0%)から回答を得た。

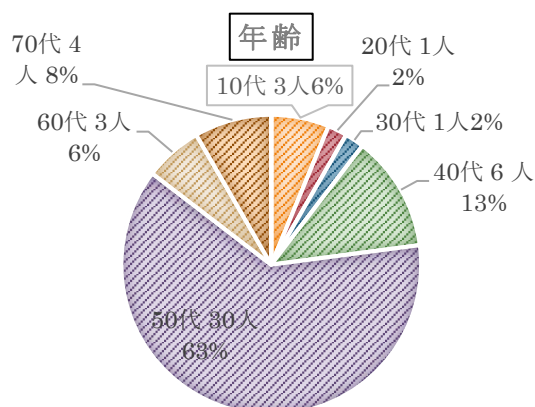
①性別

性別は男性が35人(72.9%)
女性が12人(25.0%)となっている。



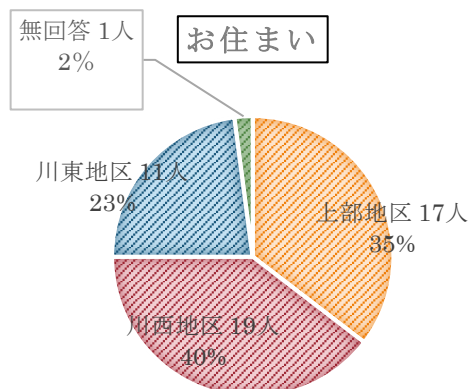
②年齢

年齢は10代が3人(6.3%)
20代が1人(2.1%)、30代が1人(2.1%)
40代が6人(12.5%)、50代が30人(62.5%)
60代が3人(6.3%)、70代が4人(8.3%)
となっている。



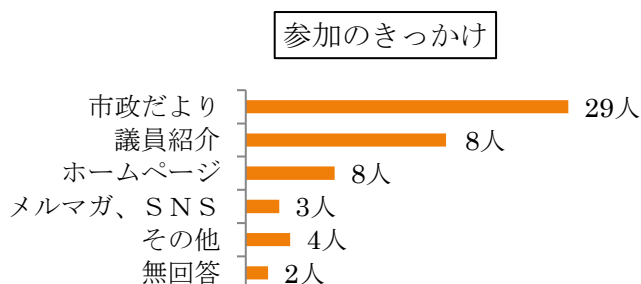
③お住まい

住まいは上部地区が17人(35.4%)
川西地区が19人(39.6%)、
川東地区が11人(22.9%)となっている。



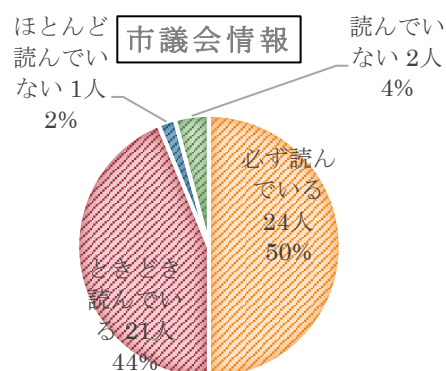
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより29人、議員紹介18人、
ホームページ8人が多数を占めている。



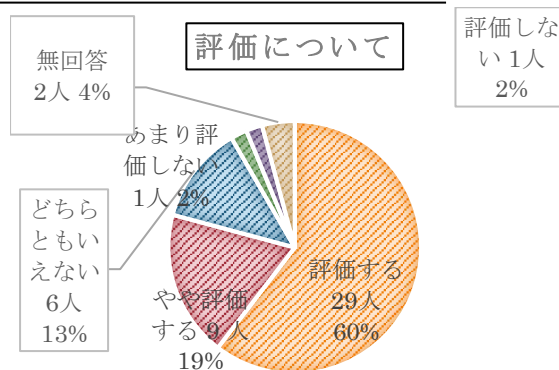
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 24 人 (50.0%)、ときどき読んでいる 21 人 (43.8%)、ほとんど読んでいない 1 人 (2.1%)、読んでいない 2 人 (4.2%) となっている。



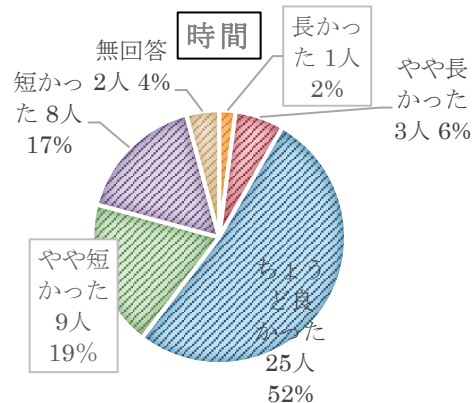
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 29 人 (60.4%) やや評価する 9 人 (18.8%) を合わせて、8 割近くの参加者が評価していると回答した。



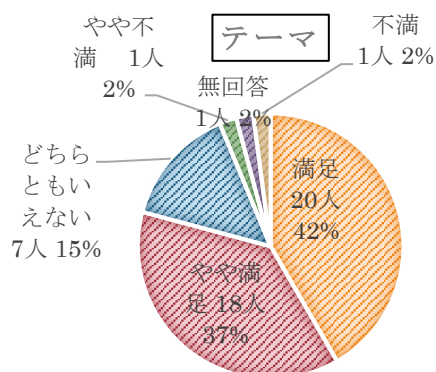
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 25 人 (52.1%) と、半数以上の参加者がちょうど良いと回答した。



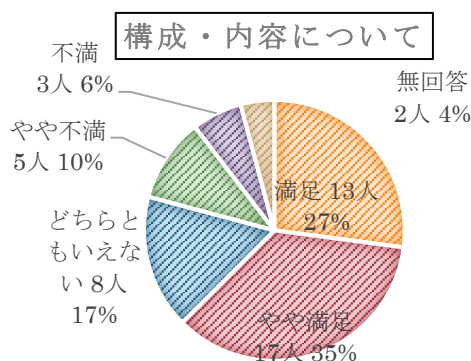
⑧テーマについて

テーマについては、満足 20 人 (41.7%) やや満足 18 人 (37.5%) を合わせて、8 割近くの参加者が満足と回答した。



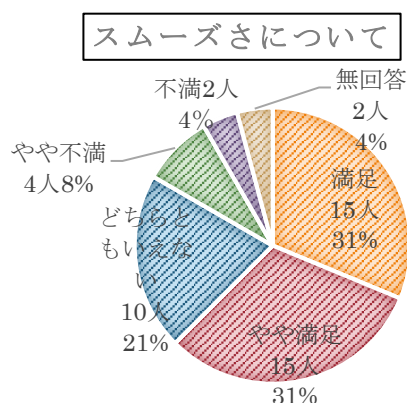
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 13 人 (27.1%)
やや満足 17 人 (35.4%) を合わせて
6 割以上の参加者が満足と回答した。



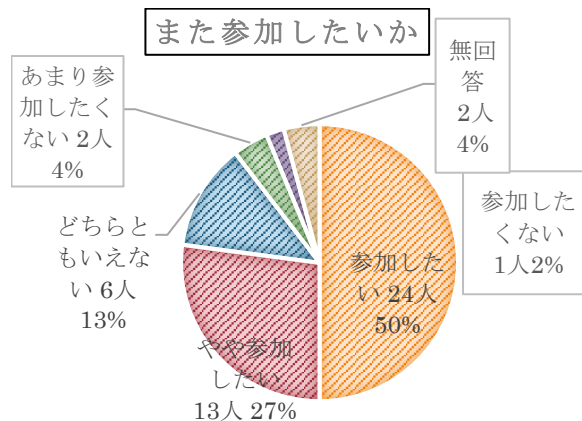
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 15 人 (31.3%)
やや満足 15 人 (31.3%) を合わせて
6 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 24 人 (50.0%)
やや参加したい 13 人 (27.1%) と合わせて
8 割近くの参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

○時間が足りない。テーマも1回1件に絞っても良いのではないかと思います。いろいろな意見
がありましたが、続けることが大切であると思います。貴重な機会をありがとうございました。

(50代 男性)

○もっと一般市民の人が多かったらよかった。内容がよかったので余計に感じた。(50代 男性)

○もっとお話を聞きしたかったです。(10代 男性)

○団体、議員、市民の三角形で三角食べみたいに関わりながら意見を聞いて欲しい。テーマについ

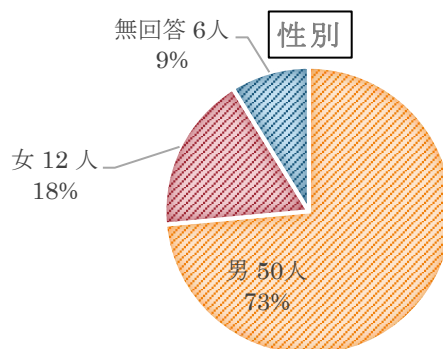
- て深堀したい。(10代 男性)
- 団体の説明が全体時間のわりに長い。(50代 男性)
- 参加者が少なかった。多くの市民の方に参加していただけるよう広報の方法を工夫してほしい。(50代 女性)
- 市民や各種団体の生の声を聞き、議会がそれを反映して市政に生かすことが出来れば新居浜市にとって大変よいことだと思います。しかし、よい企画にもかかわらず来場者が少ないことが気になりました。PRの方法が今後の課題かと思います。(50代 男性)
- 参加しやすい曜日、時間帯にすればよいのでは。(50代 男性)
- もっと意見交換する時間をとるべきかと思います。(40代 女性)
- フォーラム形式ではなく、各種団体とのざっくばらんな形での意見交換会がよいのでは。結果はHP、議会だよりで公表すればよい。(50代 男性)
- 来場者をふやす努力をしてほしい。(50代 男性)
- 参加者が少ない。(50代 男性)
- 自分たちの生活にかかわることであり、貴重な話を聞ける機会なので、もっと市民の方に参加してもらえるようにすればよい。(50代 男性)
- もっと会場に人が来れるような場になればよいと思いました。せっかくの貴重な機会なので、広く傍聴者を募れたらよいと思います。(40代 女性)
- 初めの説明のため、意見交換の時間が短かった。もう少し議論の時間が長ければよいのではないのでしょうか。(50代)
- もっと個々の議員さんの考えを聞きたい。(50代 男性)

3 (2) 来場者アンケート調査 (11月20日)

■来場者にアンケート調査を実施し、68人(回収率85.0%)から回答を得た。

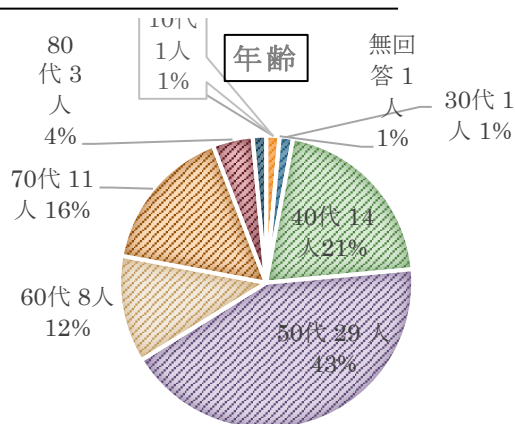
①性別

性別は男性が50人(73.5%)
女性が12人(17.6%)となっている。



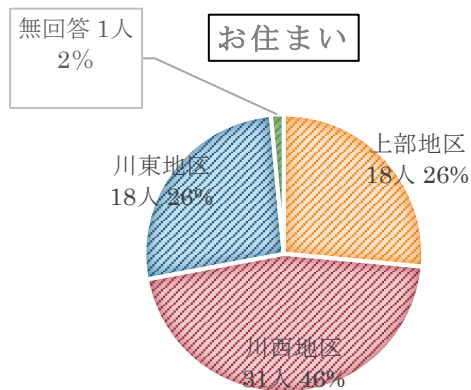
②年齢

年齢は10代が1人(1.5%)
30代が1人(1.5%)、40代が14人(20.6%)
50代が29人(42.6%)、60代が8人(11.8%)
70代が11人(16.2%)、80代以上が3人(4.4%)
となっている。



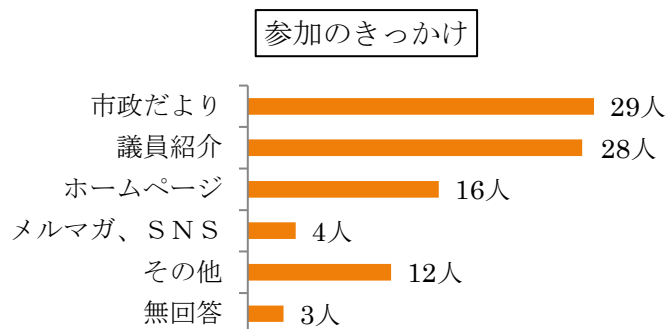
③お住まい

住まいは上部地区が18人(26.5%)
川西地区が31人(45.6%)
川東地区が18人(26.5%)となっている。



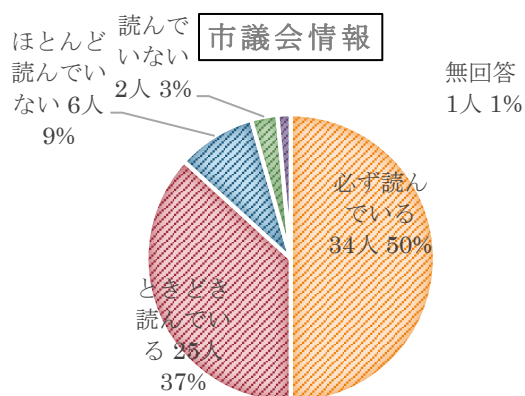
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより 29人、議員紹介 28人
ホームページ 16人が多数を占めている。



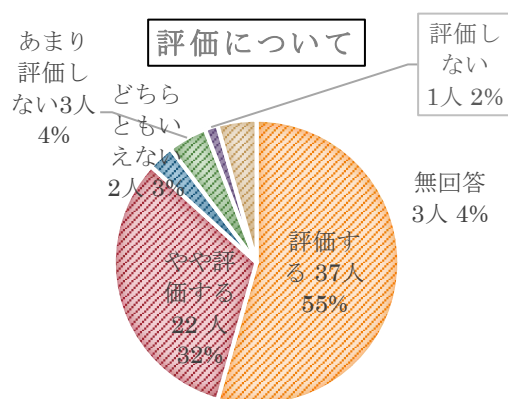
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 34 人 (50.0%)、ときどき読んでいる 25 人 (36.8%)、ほとんど読んでいない 6 人 (8.8%)、読んでいない 2 人 (2.9%) となっている。



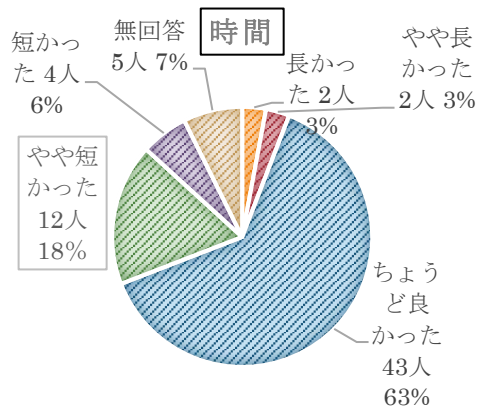
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 37 人 (54.4%)、やや評価する 22 人 (32.4%) を合わせて、8 割以上の参加者が評価していると回答した。



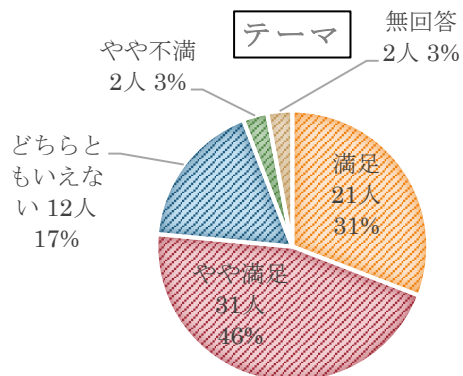
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 43 人 (63.2%) と、6 割以上の参加者がちょうど良いと回答した。



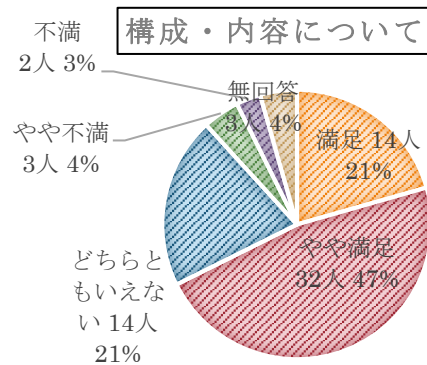
⑧テーマについて

テーマについては、満足 21 人 (30.9%)、やや満足 31 人 (45.6%) を合わせて、7 割以上の参加者が満足と回答した。



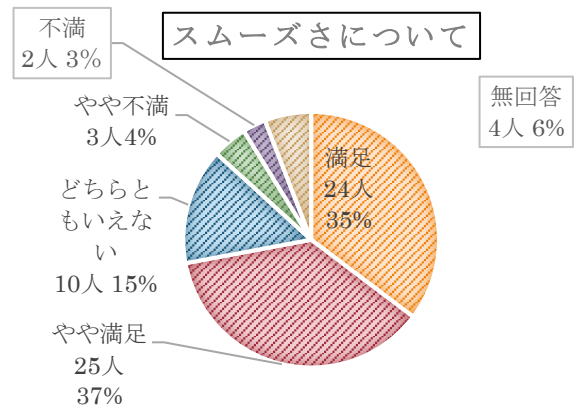
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 14 人 (20.6%) やや満足 32 人 (47.1%) を合わせて 7 割近くの参加者が満足と回答した。



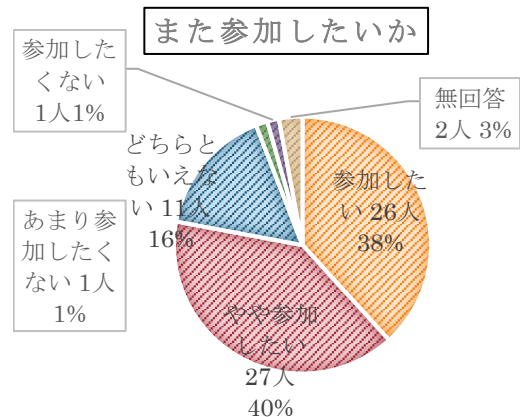
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、満足 24 人 (35.3%) やや満足 25 人 (36.8%) を合わせて 7 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、参加したい 26 人 (38.2%) やや参加したい 27 人 (39.7%) と合わせて 8 割近くの参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

- 市民との意見交換会の部分はどこ？報告会ではないか？スポーツの方は市民の目を持っているか？滝の宮の話では現利用者の声（アンケート等）を聞いて取り組んでいるとは思えない。（40代 男性）
- 今年初めての参加ですが、意見交換会の中身の充実度はコーディネーターの手腕でかなり変わってくると感じました。（50代 男性）
- 当地の名のある人の意見が聞けた。新居浜の現状、実状がわかった。これを続けてください。（60代 男性）

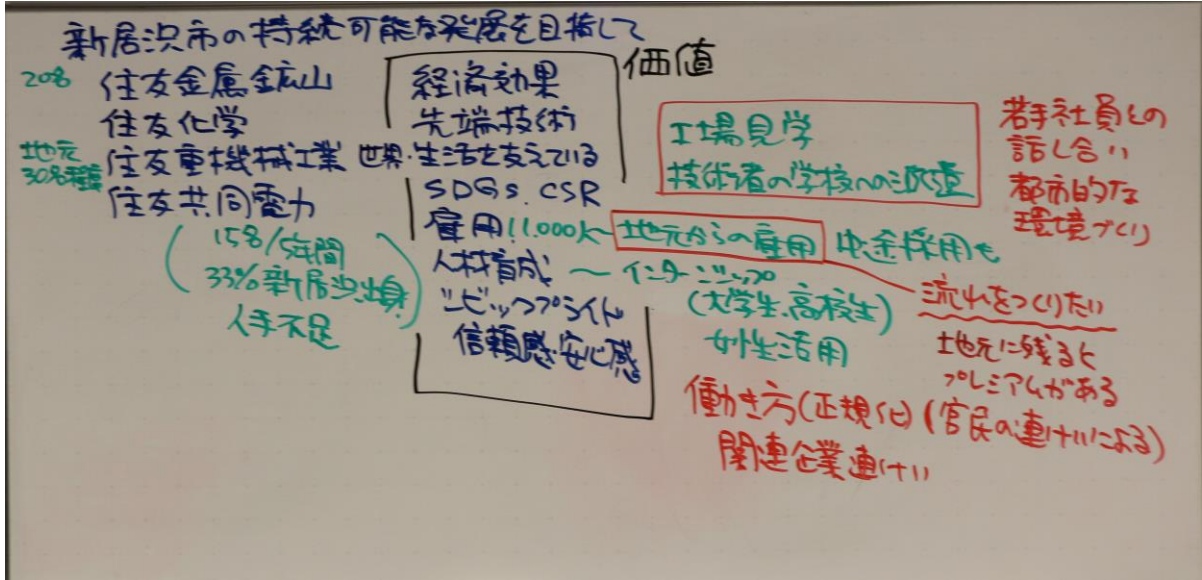
- 識者、議員、市民全ての意見を出せるのはよかった。インフラ新設の話が出てたので、もう少し銭の話や資料があってもよかったかな。維持費や縮小とかはマイナス面がもう少し出てもよかった。(30代 男性)
- まず、司会が高齢男性なのがよくない。男女問わず若い人が司会をやらないと今ひとつやる気を感じない。高校生の意見はまあまあ考えてるなど。前田先生の進行はよかったと思います。マイク持って回るのが1人では効率悪い。(40代 男性)
- 初めて参加しましたが、一般市民の方が何名くらいいるのでしょうか？市民と議会の距離感があります。そこから埋めていくことを皆で考える必要があるのではないのでしょうか。参加しておもしろいとか、ためになるような仕掛けはできないのでしょうか？議員さんが一般の人10名くらい連れてくるくらい必要じゃないのでしょうか？(50代 男性)
- 45分の中で、司会が5分も時間を取るのはどうなのでしょう？フォーラム形式でするのは限界なのかもしれません。(無回答)
- 行政が自分に何をしてくれるかも大事ですが、自分達がどう行政に参加(かかわる)することを気付いてもらうテーマや意見交換になればいいなと思います。(70代 男性)
- もっともっと進化し、参加が増えるような中身になると思えました。(出口設定した中での進め方があればもっとわかりやすかった)(50代 男性)
- 今後とも実施を続けてほしい。(80代以上)
- 分かりやすくてよいと思う。テーマが問題で、市民にとって関心の高いものは何か？を踏まえて選ぶことも必要かと思いました。(60代 男性)
- 一般の意見を聞く場となるとよい。(60代 男性)
- 滝の宮公園リニューアルは全く知らなかったので興味深かった。高校生もしっかりした考えを持っていて感心した。前田教授の進行、まとめ方よかったと思います。(60代 女性)
- 開催時の更なる広報を。(60代 男性)
- 今回は若者の意見が聞かれ、大変よかった。今後も若者にこのような場をつくっていただきたい。若者を育てることもつながり、持続可能で発展のある新居浜づくりへつながると思う。(50代 男性)
- あまりにも時間が短く、話が深化する前に終わってしまう点がおかしい。団体側はどうしても代表として自分たちの宣伝となってしまう点があり、本来のテーマからずれてしまうため、話がちぐはぐになる。議員さんたちの意見も必要かもしれないが、市民からの意見をもっと吸い上げる方法を考えていただきたい。(50代 男性)
- 本意見交換会の成果を見える化する。(50代 男性)
- 昨日よりは意見を聞いてくれる空気があった。1日1テーマにして、もっと意見交換をした方がよい。まだ言いたいことがある人がたくさんいると思う。来てないだけで。(40代 女性)
- テーマの公募、市民が興味ある、深掘してほしいテーマを募集する。(50代)
- もっと市民の人が参加したらいいのと思った。もっともっと参加してもらおうべき。初めてですが来てよかった。知らなかったことが多かったので知れてよかった。(40代 女性)

4 資料編 (会場ホワイトボード)

■ 11月19日 (火)

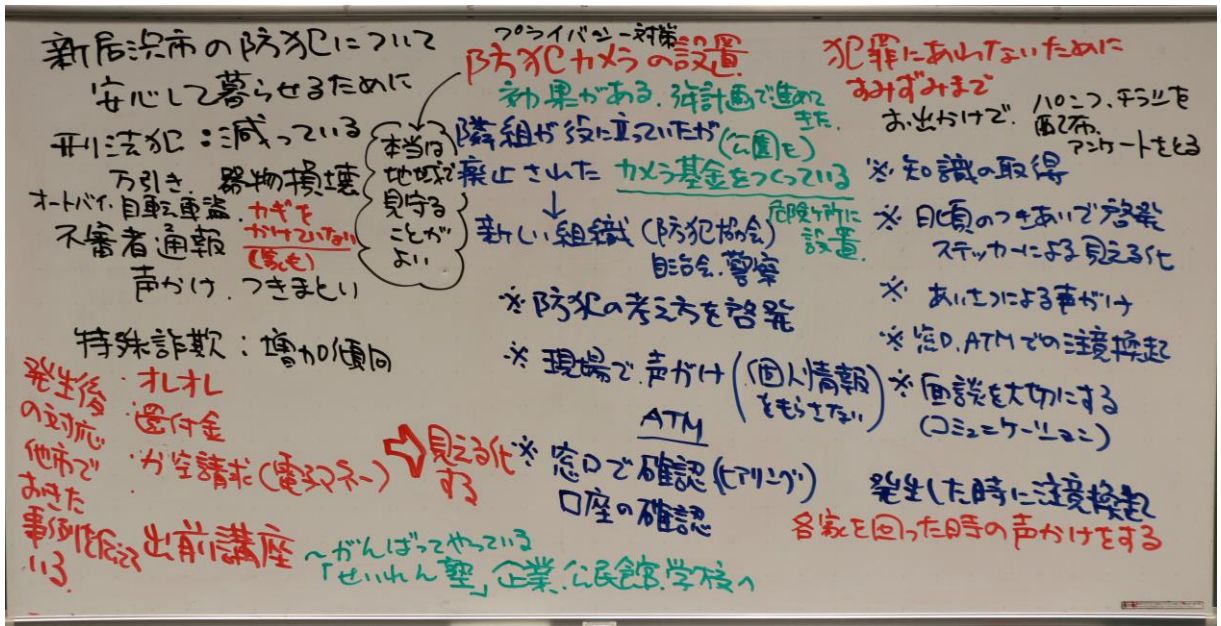
第一部 企画総務委員会

テーマ:「新居浜市の持続可能な発展について」ホワイトボード



第二部 市民経済委員会

テーマ:「新居浜市の防犯について」ホワイトボード



新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム 2019



新居浜市議会市民との意見交換会
議会フォーラム 2019 開催報告書
令和元年度

令和元年 12 月作成

新居浜市議会事務局

電話 0897-65-1321 (直通)

FAX 0897-65-1322